

BrightEyes

瞳を輝かせて

輝

いつかオリンピックピックの舞台に
平成14年度新体操選手優秀賞を受賞

高杉 早紀さん（北中学校1年）

「趣

味は、と聞かれたら迷わず新体操って答えます。それくらい新体操が大好きです」

とびきりの笑顔で話すのは、愛知体操協会から平成14年度新体操選手優秀賞（小学生の部）を受賞した高杉早紀さんです。これは昨年度の大会を通して県内で優秀であると認められた選手に贈られるもので、平成14年度小学生の部の受賞者は、高杉さんを含め3人のみ。新体操の選手層が厚い愛知県では、まさに「狭き門」です。「わたしが賞をもらったのも、現在所属するハーツ新体操クラブの黒宮美稚子先生や家族の支えがあったからこそ。受賞はみんなで行くことができました」と感想を話します。

高杉さんが新体操を始めたのは小学1年生のとき。「何か運動できる習いごとを」という母



▶▶▶プロフィール

たかすぎ・さき 平成2年生まれの12歳。北中学校1年。ハーツ新体操クラブ所属（指導：黒宮美稚子氏）。小学4年生のときから大会に参加。得意種目はリボン。愛知県新体操ジュニア選手権大会11位、平成15年度リトルジュニア大会4位など輝かしい成績を残す。あこがれの選手はロシアのオリンピック代表、アリーナ・カバエバ選手。

葉子さんの思いから、豊田市の自宅近くにあった新体操クラブに通い始めたのがきっかけです。当時は土曜日1時間のみの練習だったにもかかわらず、小さいときから体が柔らかかった高杉さんは、ぐんぐん上達。4年生になるころには「選手コース」に入り、競技を意識した練習を始めたそうです。「生まれて初めて大会に出場したのは4年生の冬。本番ではとても緊張しましたが、自分の演技をみんなの前で踊りきったあの達成感は、今でも忘れられません」。

そんな高杉さんにも不調な時期がありました。小学4年生の3月に三好町に引っ越してきた高杉さんは、引っ越しと同時に今まで通っていたクラブをやめ、現在所属するハーツ新体操クラブに入部。その後間もなく、4月に開催された愛知県が主催するリトルジュニア大会に出場しました。チャレンジのつもりでの大会参加でしたが、見事4位に入賞。このことがその後の大会参加へのプレッシャーになってしまったのです。「あの時は、前のようにうまく踊れるのかという不安でいっぱいになり、大会に出ることが怖くて仕方なかったです。練習中にトイレで泣いたことも何度もあります。そんなわたしを支えてくれたのが黒宮先生でした。厳しく、そして優しい先生の熱心な指導がなかったら、今のわたしはなかったと思います」と感謝の気持ちを話します。

現在、7月に開催される愛知県新体操ジュニア選手権大会での上位入賞を目指し、週に4日の練習に励む高杉さん。「いつか大好きな新体操で、日本を代表する選手として、オリンピックの舞台に立ってみたいです」と瞳を輝かせます。

これからも夢に向かって頑張っていくって下さいね。

みつけたみよしの
はつらっさん

自然に笑顔がこぼれるように

原田 一夫さん（三好丘緑）

「うちにいるのは、雨の日ぐらいいかな」と笑顔で話す原田さん。1年を通して田や畑の世話をするほか、カラオケの練習や清掃奉仕活動といった老人クラブの活動にも積極的に参加。またシルバー人材センターのせんだの仕事をするなど、予定いっぱい忙しい毎日を送っています。「特に健康を意識してというわけではないですが、気が付くと体を動かしていますね。田畑の世話や庭木のせんだなど、自分の好きなことで体を動かせるのはうれしいもの。自然に笑顔になっています」。

中でも特に原田さんが打ち込んでいるものは、ゲートボール。昨年までほかの行政区と合同だった練習が、春から三好丘緑行政区単独で始まったこともあり、練習に熱が入るそうです。「まだまだ未熟ですが、いつか三好丘緑チームとして、大会に参加したいですね」と照れたような笑顔を浮かべます。三好丘緑チームの選手として活躍する、そんな原田さんの姿が今から楽しみです。



▶▶▶プロフィール

はらだ・かずお 昭和5年生まれの73歳。趣味は田や畑の世話と庭木のせんだ。また旅行に出掛けることも多く「十勝（北海道）と石垣（沖縄県）はいつ行ってもいいなあ」と笑顔。現在は、ゲートボールの練習と、1月に始めた書道に奮闘中。

みよしっ子

南中学校
野球部

南中学校の野球部を紹介します。顧問の日置睦親先生とキャプテンの相澤裕馬君に話を伺いました。

「お願いします」「ありがとうございます」。グラウンドには部員たちの声が、絶え間なく聞こえてきます。「僕たち野球部の基本は、一つ一つのプレーに部員全員で声を掛け合うこと。とにかくお互いが声を出し、励ましあいながら練習に臨んでいます」と相澤君は、笑顔で話します。

春に15人の一年生を迎え、現在部員は36人。ボール拾いやグラウンド整備などは学年にかかわらず、全員で行うことが野球部のモットーです。「グラウンド整備ができているおかげで、練習をすることができ。その感謝の気持ちを持ち続けるからこそ、気を引き締めて練習に臨めるのです。技術向上ももちろん大切ですが、部員たちには感謝の気持ちを忘れない、しっかりとれた精神面を養ってほしいですね」と日置先生。

今後の大会に向けて相澤君は「まずは東西加茂大会で優勝して西三河大会へ出場。そして、県大会出場を目指します」と力強く抱負を語っていました。

